

倭文地区史跡保存会

代表者：上原次男 所在地：津山市桑上

史跡を整備し活用するとともに後世に引継ぐ

◎ 目的

地区内の史跡を整備し、説明板・案内板等を設置し地区内外の人々に活用していただく。史跡マップの小冊子を作成し史跡見学めぐり等に活用してもらう。

わが倭文地区は、日本古来の織物（幻の織物といわれている）である倭文織^{しづおり}の生産地です。

今、わが地区で、倭文織の復元に取り組んでいます。

この倭文織の里には、数多くの史跡があります。これらの史跡は整備が十分ではないので見学が困難です。また、史跡のいわれや伝承など忘れられてきています。

史跡を倭文地区のみんなのものにするために、史跡を整備するとともに、史跡のある場所、史跡のいわれや伝承などを多くの人に知らせることが必要です。

そしてさらに、地区の多くの人に史跡を見学してもらう必要があります。

そのためには、倭文地区の史跡地図やその解説を作成し、多くの人に配布する必要があります。まず第一に、地区の中心に史跡地図の看板設置を考えました。

◎ 経過

わが地区内には、日本で3例目という短甲^{たんこう}が出土した奥の前1号墳^{おくまへ}や数十例の出土しかない蛇行剣^{だこうけん}や100例ほどの出土しかない銅甕^{どうわん}等を出土した古墳があります。

また、日本では最古級である大蔵池南製鉄遺跡^{おおぞういけみなみ}や96本もの鉄穴流し遺構^{かんなが}等がある稼山遺跡群^{すくもやま}があります。

さらに、幕末長州藩に敗れた浜田藩^{はまだ}（のちに鶴田藩^{たづた}と改める）が城と侍屋敷を焼き飛領地の美作に全藩移ってきました。藩の中心はわが倭文地区にあったのです（藩主の居館^{しとり}、藩庁、藩校など）。藩士の墓も数多く残っております。



奥の前1号墳の整備
(この古墳から日本で三例目という短甲が出土した)

数多くある史跡の実態を把握するために調査をしました。ほとんどの史跡は荒れており、倒木や雑木、雑草などで近づけない所もありました。

史跡地図を作成しても見学できなければその目的は達成できません。

そこで、秋から春にかけて史跡の整備を実施しました。そして、史跡名や案内板を設置していきました。

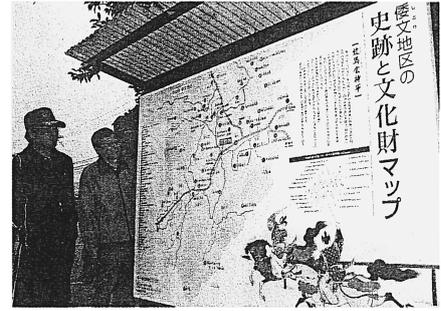
今回、倭文出張所前に立派な史跡と文化財の地図の看板を設置することができました。この設置で地区内の人々の史跡に対する関心が高まってきました。

倭文の歴史 伝え続けて

倭文地区史跡保存会（上原次男会長、37人）は、地元の古墳や遺跡など52の史跡を紹介した看板「史跡と文化財マップ」を里公文の市久米支所倭文出張所駐車場に設置した。地元の歴史伝承を目的に、福武教育文化振興財団の助成金で実施。上原会長は「倭文の深い歴史を多くの人に知ってもらい、後世に伝えてもらえれば」と期待している。（近藤哲也）

地区保存会がマップ看板

看板は縦一五尺、横二・二尺。地区全体を描いた地図に、各史跡の場所を示している。旧久米郡で最大の前方後円墳・奥の前一号墳（全長七十七メートル）や山古墳、牛岩遺跡、蛇行剣出土地など市指定文化財をはじめ、貴布祢神社や毛利氏墓所、平福城跡、国内最古級とされる大蔵池南製鉄跡、長州征伐で敗れて逃げてきた馬場貞の浜田藩の共同墓地（鶴田藩共同墓地）などが書かれている。



山陽（埴山市民版）

また、平安時代の一から京都の上賀茂神社で統一された「倭文出張所前（旧秀実中学校跡地）に設置（近）」

52の史跡、文化財紹介

〇九三（寛治七年）から藤原朝の神事、同地区

山陽

◎ 成果

史跡保存会結成後、史跡整備の活動を積極的におこない、整備がかなり進んできました。

そのため、平成20年には県内各地から史跡見学に100人近くわが地区を訪れております。

また、史跡と文化財マップの看板の設置で地区内の人々の歴史や史跡への関心も高まってきています。

倭文地区ミニ文化祭（H21. 2. 14）では、「倭文地区の歴史と史跡」という題で会員が講演しましたが100人ほどの参加者があり、熱心に聴いていました。

さらに、秀実小学校6年生の歴史の授業を会員が2回実施しました。

椽山の史跡整備後史跡ハイキングを実施したところ100人近くの参加者がありました。参加者からは「こんなにきちんと整備してくれてありがとうございます」とか「昔からこの地区に住んでいるが、こんな史跡が、ここにあったとは全く知りませんでした」などの声が寄せられました。

史跡の実態調査を続けていると、これまで我々が把握していなかった石造物など新たに発見しています。

◎ 今後の課題と問題点

1. 史跡地図の冊子作成を！

史跡と文化財マップの看板は完成しましたが、これだけでは、個人で史跡見学に行けません。

自由に史跡見学に出かけてもらうには、どうしても史跡地図とその解説が入った冊子が必要です。さらに、鶴田藩遺跡だけのマップ、古墳のマップ等分野別のマップ作成にも取り組む必要があります。

2. 史跡整備をどう継続させるか！

今、史跡整備に参加している人はほとんどが60歳以上です。整備はほぼ毎年実施しなければ意味がありません。高齢化していくほどその負担は重くなっていきます。あまり期待はできないかも知れませんが行政に働きかけるとともに、若い人達に整備活動に参加してもらう必要がどうしてもあります。そのため、各地区の自治会にも協力を要請していきたいです。

●執筆者：筒塩泰崇

● 会のプロフィール

【設 立】平成20年7月～

【会員数】37人

【活動歴】史跡の整備や案内板の設置、史跡めぐりなど

山陽新聞（平成20年11月2日）